

司式 ローレンス・スパーリンク宣教師

奏楽 五十嵐美代枝姉妹

前 奏

聖歌隊による賛美の動画：「御前に集い」、「輝く日を仰ぐとき」

* 賛美歌 81:1&3 神はひとり子を

- 1 神はひとりごをたもうほどに よびとを愛したもう 神は愛なり。
 3 罪ゆるされんためわれにかわり みこイエス十字架に死にたまえり。
 ああ、神は愛なり、けがれりはてし われさえ愛したもう神は愛なり。

アーメン

* 開会祈祷

罪の告白 祈祷書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しななければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。主イエス・キリストの御名によって。

アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈祷書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
 2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
 3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
 4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
 5. あなたの父と母を敬え。
 6. あなたは殺してはならない。
 7. あなたは姦淫してはならない。
 8. あなたは盗んではならない。
 9. あなたは隣人について偽証してはならない。
 10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

* 賛美歌 35 1節

十字架のうえにほふられたまいし こよなくきよき み神のこひつじ
わがためなやみをしのびたまいし み恵み げにもとうとし。 アーメン

共同の祈禱 38 賛美礼拝主日(11月第二主日)

聖なる主よ、わたしたちは、心をあなたに向けて賛美します。わたしたちの神を
ほめ歌うのはいかに喜ばしく、神への賛美はいかに美しく快いことでしょう。
命の主よ、創造主にして救い主であるあなたに、賛美のいけにえをささげることは、
まことにあなたにふさわしいことです。あなたの栄光があらわされるところどこに
おいても、あなたを礼拝することは、わたしたちの大きな喜びです。

(詩編147、ヘブライ13)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 大会執事活動 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 詩編32編1-5節(旧約聖書862頁)

イザヤ書53章4-6節、8節、10-12節(旧約聖書1149頁)

マルコによる福音書10章45節(新約聖書83頁)

説教・祈禱 「負い目を支払う主」 L. スパーリンク宣教師

* 賛美歌 38:1&5 いさおなき我を

- 1 いさおなきわれを 血をもてあがないイエスマねきたまう、みもとにわれゆく。
- 2 たよりゆく者に救いと命をイエスちかいたもう、みもとにわれゆく。アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にましますわれの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 68 あまつ御民も地にある者も

あまつ御民も地にある者も 父・子・御霊の
神をたたえよ 神をたたえよ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤純一長老(司会・受付 次週:門脇陽子長老)

本日 受付 1階:古澤迪子執事 2階:佐藤紀子執事/ 動画:大日南信也執事 録音:雨宮信長老
次週 受付 1階:星野房子執事 2階:藤井牧子執事/ 動画:門脇光生兄弟 録音:番場駿也兄弟

中心的主張点: イエス様は私の負い目を代わって支払ってくださり、私を罪とその報酬である死から解放してくださった。あなたもそうしてもらいなさい、信仰によって!

聖書箇所: 詩編32編1-5節 (旧約聖書862頁)

いかに幸いなことでしょうか、背きを赦され、罪を覆っていただいた者は。いかに幸いなことでしょうか、主に咎を数えられず、心に欺きのない人は。わたしは黙し続けて、絶え間ない呻きに骨まで朽ち果てました。御手は昼も夜もわたしの上に重く、わたしの力は、夏の日照りにあって衰え果てました。わたしは罪をあなたに示し、咎を隠しませんでした。わたしは言いました、「主にわたしの背きを告白しよう」と。そのとき、あなたはわたしの罪と過ちを赦してくださいました。

イザヤ書53章4-6節、8節、10-12節 (旧約聖書1149頁)

彼が担ったのはわたしたちの病/彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに/わたしたちは思っていた/神の手にかかり、打たれたから/彼は苦しんでいるのだ、と。彼が刺し貫かれたのは/わたしたちの背きのためであり/彼が打ち砕かれたのは/わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって/わたしたちに平和が与えられ/彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。わたしたちは羊の群れ/道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて/主は彼に負わせられた。... 捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか/わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり/命ある者の地から断たれたことを。... 病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ/彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは/彼の手によって成し遂げられる。... 彼は自らの苦しみの実りを見/それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人々が正しい者とされるために/彼らの罪を自ら負った。それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし/彼は戦利品としておびただしい人を受け。彼が自らをなげうち、死んで/罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人々の過ちを担い/背いた者のために執り成しをしたのは/この人であった。

マルコによる福音書10章45節、(新約聖書83頁)

「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人々の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」

序説: たまたま英語の礼拝式に参加する場合、主の祈りを唱えるときに、私が慣れ親しんでいるのと違う言葉で祈られることがあります。第5の祈願が問題です。「我らに罪を犯すものを」のところですね。英語で、Forgive us our DEBTS as we forgive our debtors となっていますが、その代わりに、Forgive us our TRESPASSES, as we forgive those who trespass against us. 全然流

れが違い、正直に言えば、私には不愉快な思いがします。どちらが正しいでしょうか。(trespassとは不法侵害の意味ですが、昔の英語では意味がもうちょっと広がったようです。)同じ類の問題は日本語にないでしょうか。全くないわけではありませんが、私たちの教会のようにほとんどのキリスト教会は定着した文語体の日本語で唱えていますね。でも、主が祈りを教えてください、マタイ伝6章12節とルカ伝11章4節では違う言葉を使っています。マタイは「負い目」を2回使いますが、ルカは「私たちの罪を赦してください、私たちも自分に負い目のある人を皆赦しますから」となっています。文語体の主の祈りには「罪」が2回も出てきますが、聖書の現在の翻訳にはルカの一回のみですね。これをどう考えたらよいでしょうか。

1、何れにしても、聖書は人間のいわゆる「問題」をいろいろな表現で語っています。罪、背き、失敗、過失、過ち、非行、咎、罪責、違反、反逆、負債、腐敗、など、本当にたくさんあります。「罪」と耳にすると、法律違反とすぐ思いますので、誰でも自分が「罪人ではない」と反発します。犯罪者ではないからです。英語では「sin」にはそんな意味がありません。大抵神様に対していけないことをしたという意味です。犯罪は「crime」と言いますね。「sinner」＝「criminal」なのではありません。いくら言葉に引きかかっても、聖書がいろいろな単語で語ることが確かで、場合によってある具体的行為を意味しますし、また場合によって、人の状態であると意味します。行いであり、状態である、と指摘します。具体的に背きを行ったことと、反逆者の心の持ち主だという違いです。大抵は両方がワンセットになっています。

その結果、私たちは持っていない慰め、平安、導き、道徳の向上、交わりが欲しいです。これらを教会に来ても求めます。基本的な問題は私たちと創造主なる神様との関係纏れだとわからなくても、心細く、物足りないことを意識しています。落ち着きがありません。くじけた気持ちで教会に来て癒しと平安を求める人が多くいます。でも、これは大体基本にある問題の解決ではなく、これに伴う症状に対する助けを求めることに相当します。いいですよ。私たちは皆そうですから、教会はいつでも歓迎してくれますね。でも、症状への治療だけだと、病の癒しにはなりません。結局「救い」とは基本的に神様への背きの問題の解決である。つまり、神様との和解であり、墮落以前の関係回復です。心の優しい人で、たくさんの虐待を受け、大きな過失がなくても、殺人犯や多くの加害を犯してきた人であっても、問題の本質は同じです。聖なる神様に近づけば近づくほど、自分の心に深刻な問題があることに気付きます。

2、自分が罪人ではないと、イエス様と話しかけていたパリサイ派のユダヤ人指導者が反発しました。ヨハネによる福音書の8章に記録があります。その時にイエス様は大切な真理を、しかも耳に痛い言葉をお語りになりました。34節：「はっきり言うておく。罪を犯すものは誰でも罪の奴隷である。」と。依存症で苦しむ人なら、自分が奴隷であることが割とはっきりしていますから、認めやすいかもしれません。けれども、実際に自分の良心にきちんと従うことができなくて、神様の清い御心にきちんと従うことが自分には無理であることが私たち一人一人、みんなの問題です。自分の正しさを言い張っている、本当に立派に励んでいるパリサイ派もそうであるならば、私は実に汚いものです。罪に汚れています。自分を改善する力がありません。ただ悔い改めるしかありません。

罪の奴隷は悪魔の支配下、死の支配下にいます。「罪が支払う報酬は死である」とローマ3章23節の通りです。ハイデルベルク信仰問答書の問い10-11はこう言っています。「問10.神はそのような不従順と背反とを罰せずに見逃されるのですか。答.断じてそうではありません。それどころか、神は生まれながらの罪についても実際に犯した罪についても、激しく怒っておられ、それら

をただしい裁きによってこの世においても永遠にわたっても罰したもうのです。問11.しかし、神は憐れみ深い方でもありませんか。答：確かに神は憐れみ深い方ですが、またただしい方でもあられます。ですから、神の義は、神の至高の尊厳に対して犯される罪が、同じく最高の、すなわち永遠の刑罰を持って体と魂において罰せられることを要求するのです。」

これは本当に恐ろしいことですが、これが聖書と主イエス様が教える現実です。けれども、これは終わりなのではありません。イエス様はなお、私たちを自由にするのできるお方です。イエス様が現れたのは、罪の贖いのため、罪の償いの代価を支払うため、囚われ人を解放して下さるためなのです。

3、聖なる創造主と反逆犯はどのように関係回復ができるでしょうか。多くの人は神様が聖なる方でいらっしゃることにつまずき、裁かれる話に納得しません。けれども、これを私たちに指摘して下さることは別の意味で恵みです。ただしい診断があれば、解決を求めることが可能になるからです。「絶対に聖であり光である主に背く私たちは罰を免れることが不可能です。」罪と死の支配下にあり、靈的にすでに立ち上がることすらできません。けれども、解決の道があります。世界の歴史の中でその道が現れます。実に、人間の反逆のふくらみと神様の忍耐、救いの実現へのご配慮は世界史の中身です。その解決とは何でしょうか。いうまでもないことで、すでに確認してきましたが、自分の努力を重ねても、お祓いをしてもらっても、解決にはなりません。ほぼ毎回説教するときその解決の道を指摘して、ヨハネによる福音書3章16節を引用していますね。皆様もほとんど覚えていらっしゃるでしょう。礼拝の最初に歌った賛美歌にもありました。歌詞を再確認しましょう。「神は独り子をたまうほどに世人を愛したもう 神は愛なり。罪ゆるされんため我にかわり み子イエス十字架に死にたまえり。」

4、今日は3000年前に記されたダビデ王の言葉と、2700年前の預言者イザヤの言葉を読みました。ダビデは赦されるはずのない罪を犯したことがサムエル記に書いてあります。彼は姦通の罪と殺人の罪を犯して、払いきれない負い目を課せられています。けれども、「いかに幸いなことでしょう、背きを赦され、罪を覆っていただいた者は。」と歌っています。自分で負債を完済したなどとは言いません。覆っていただいたと言います。自分の罪と過ちを素直に認めて、神様の憐れみを願った時に、神は有罪であることを「覆う」、すなわち、贖うのです。神様の一方的恵みの救いの業です。神様が聖なるただしいお方なのに、どうしてこんなことができるでしょうか。それは約束された救い主キリストが代わって払うべき代金を支払って下さることになっているからです。

このこと、つまり、救いの成り立ちを預言者イザヤもはっきりと しかもことが起こるはるか前に予め語ります。問題もはっきりさせます。イザヤが丁寧な言葉使いで、私たちに背きがあり、咎があると言い、また、罪があり、過ちを犯していると言います。背きと過ちは具体的な行いを指します。咎と罪は私たちの心の状態を語ります。これらによって神様の怒りと裁きの対象になります。しかし、しかし！想像したこともない、神様の憐れみがあります。それは、私たちの罪責を全て引き受けて、ご自分の身を差し出して、私たちに代わって裁きを受けて下さるという、救い主が備えられると語ります。預言者イザヤがここで語る「彼は」ってどなたでしょうか、教えてください、と、エチオピアの宦官が伝道者フィリポに聞きます。これを知ることによって、信じて、より頼むことによって、救われるのです。そしてフィリポは答えます。「ナザレのイエスです。神様が約束して下さった贖い主、自らが死ぬべきものに代わって死に、私たちを命に導き出します。『彼は自らを償いの捧げ物とした。』『私の僕は、多くの人を正しい者とされるために彼らの罪を自ら担った。』『多くの人を過ちを担い、背いた者のために執り成しをしたのはこ

の人であった。』」つまり、主イエス様です。イザヤの預言は神様の計画通り、時が満ちて実現しました。これによって、すなわち、預言が成就したことによって、救いの道が確実に開かれたことを確信することができます。

5、最後に、イエス様ご自身の言葉を確認しましょう。地位争いに陥りがちなイエス様の弟子たちに主がこのように語ります。「いちばん上になりたい者はすべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」身代金を支払って拉致された人を買戻すことを考えるでしょう。でも、イエス様のこの時代に言われる身代金は、奴隷が自由人となるために支払う代価を意味しています。まさに、私たちの奴隷になってしまっていることの解決です。死刑囚がまるで解放されるための代価です。なんとというありがたいことでしょう！

もう一つのことをここで確認しましょう。私たちに払いきれない負債があるのですね。イエス様はそこで、その負い目をただ帳消しにするではありません。ご自身の命を差し出して、負い目を私たちに代わって支払ってください。私の代わりに私の受けるべきだった裁きを引き受けて、十字架にかかってください。そして、そのために来られたというのです。ここに一方的な恵みによる救いがあるのです。

主は聖餐式を制定なさったときにもこのことを指しています。「この杯は 多くの人の罪が赦されるために流される 私に血によって立てられる新しい契約である。」イザヤが語ったことが主イエス様の身に実現しました。それゆえに私たちもダビデが経験した幸いを得ることができるのです。

決論：赦しの代価はイエス様の尊い血、その命です。十字架の犠牲によって、より頼む私たちの罪責が消え、私たちの負債が完済されます。「いかに幸いなことでしょう！」 私たちも感謝して、賛美の礼拝を捧げようではありませんか。

祈祷：詩編32編6-7節

恵み深い 愛する天の神様、私達も昔の主の民と声を合わせてみ名を賛美いたします。「あなたの慈しみに生きる人は皆／あなたを見いださうる間にあなたに祈ります。大水が溢れ流れるときにも／その人に及ぶことは決してありません。あなたはわたしの隠れが。苦難から守ってください方。救いの喜びをもって／わたしを囲んでくださる方。」今日はあなたが備えてくださった聖書から、救いの道を確認するができ、心から感謝いたします。罪深い、咎と過失だらけの私たちですが、あなたの大いなる一方的な恵みによって 御子イエス様の犠牲により、完全な捧げ物によって、罪の負い目を取り除いて、私たちの一切の汚れを洗い落としてください。どうか、いつもこのことを思い出して、あなたに愛されていることを覚え、感謝に溢れる日々を歩むことができますように。また、これこそが主の備えてくださる救いの道であることを悟り、信じて、死と裁きの恐れから解放されることができますように。今日こそ、あなたの恵みを心の奥底に知ることができますように、み恵みを注いでください。主イエス様の尊いみ名によってお祈り致します。